

2026年2月16日

報道関係各位

株式会社アルファヴィル

ブリコラージュ・シティ／アルファヴィル展覧会 開催のお知らせ

京都を拠点に活動してきた建築家・アルファヴィルによる展覧会「ブリコラージュ・シティ」を、日本橋の家ギャラリーにて開催します。本展では、2003年から2025年までの約20のプロジェクトを通じて、都市との強い関係性のなかで編み上げられてきた設計の思考と実践を紹介します。開口や補助線、剰余空間によって周囲の環境を更新するような建築のあり方を、細長いコンクリート空間を一つの都市と見立てて、模型やスタディを交えながら立体的に提示する展覧会です。



開催概要

会期 —— 2026年3月14日(土)～4月19日(日)

開館日 —— 金、土、日曜及び祝日

開館時間 —— 13:00～18:00

会場 —— ギャラリー日本橋の家
(大阪府大阪市中央区日本橋2丁目5-15)

入場料 —— 無料

主催 —— 株式会社アルファヴィル

什器製作 —— 設計施工集団モクテキ工藝社

協力 —— 近畿大学竹口健太郎研究室
大阪工業大学山本麻子研究室
日本建築設計学会

広報協力 —— 一般社団法人建築センターCoAK

Website —— <https://a-ville.net/>

【イベント】

- ・プレス内覧会：3/14(土) 11:00～12:00※要申込
- ・レセプション：3/14(土) 16:00～18:00
- ・ギャラリーツアー（各回10名程度、先着順）17:00～
3/15(日)：竹口健太郎（ゲスト：川勝真一）
3/22(日)：竹口健太郎（ゲスト：畑友洋）
3/29(日)：山本麻子（ゲスト：榮家志保）
4/12(日)：山本麻子（ゲスト：松本尚子）

【本件に関するお問い合わせ・申込先】

株式会社アルファヴィル / E-mail: 002@a-ville.net / Tel: 075-312-6951

展示概要

本展示会は、安藤忠雄設計の「ギャラリー日本橋の家」10周年にあたって企画された、3名の建築家による展示会の第一弾となります。

展示を行う株式会社アルファヴィルは、活動を始めてから25年、京都を中心とした伝統的な街並みの中に、新しい価値をもつコンTEMPORARYな空間設計を行ってきましたが、ここでの展示にあたり、独特な細長いコンクリート打ち放しの空間を強い個性を持つ都市空間と見立て、そこにしなやかに対峙するような設計姿勢を展示します。

展示されるのは、アルファヴィルの2003年から2025年までのプロジェクトおよそ20点です。各プロジェクトがもつ都市との強い関わりに、一つの開口、一つの補助線、一つの剰余空間を加えることで、建築と都市の融合体が新しい意味を持ち、また生き続けることを念頭において、取り組んできました。さらに間にスタディやコンセプトの模型も挟み込むことで、各プロジェクトの空間性だけでなく、相互の時間的な繋がりも見られるようになっています。

木製のグリッドで形成されたモダニズム都市のような什器を、日本橋の家の壁からはなして自立させ、断面方向の繋がりを持たせることで、空間と同時に時間をも表現するような展示を試みました。この制作は京都で日々、都市の力を感じながら建築を学んでいる、加子母木匠塾OBで京都大学・京都工芸繊維大学有志による設計施工集団モクテキ工藝社と共同で行いました。

出展者プロフィール

竹口健太郎+山本麻子（たけぐちけんたろう+やまもとあさこ）
（株）アルファヴィル



建築家。

1971年生まれ。京都大学修士課程修了。

ヨーロッパ留学を経て1998年アルファヴィルを共同設立。

現在、竹口は近畿大学教授、

山本は大阪工業大学准教授、京都大学非常勤講師。

建築作品として、「カトリック鈴鹿教会」「高野山ゲストハウス」「絆屋ビルディング」「Tea Square 森半」「New Kyoto Town House シリーズ」など。

渡辺節賞、JIA 関西建築家新人賞、京都建築賞、日本建築設計学会賞など受賞。

作品集に「ALPHAVILLE Architects」(2015, equal books)、「COME GIARDINI」(2015, LIBRIA)、「ALPHAVILLE Architects 2」(2026, Nemo Factory)。

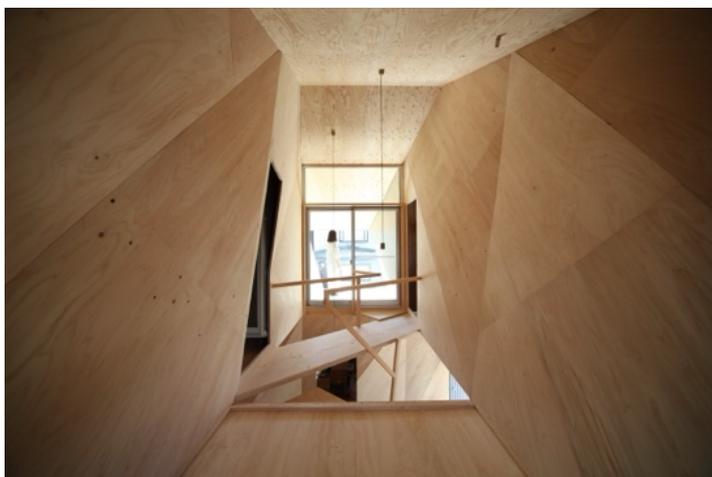
建築家によるテキスト

ブリコラージュとは、フランス語 bricoler（ブリコレ）を語源として、「あり合わせのもので作る」「工夫して組み合わせる」ことを意味する。コラージュと違うのは、文脈の異なる断片を隣り合わせた時に起こるハレーションを求めるのではなく、すでにある文脈を見直し、そこに新しい文脈を繋ぎ合わせて有用なものを作るところにある。

私たちが建築を通して行おうとしているのは、既存の文脈を取り込みながら、それが違うものに見えてくるような装置の発見だ。装置は一つの断面であったり、構造であったり、窓であったりする。新築であれ、改修であれ、文脈の再解釈を誘う私たちのプロジェクトは、単体の建築ではなく、そこに新しい環境を生み出してきた。このような意味をこめてブリコラージュ・シティと名づけた。

日本橋の家という密度の高い文脈に、わずかに斜行する展示台を入れることで、日本橋の家の空間の絶妙なスケール感を再発見する契機になると同時に、私たちの20年に及ぶ試みの全体像を感じていただければと思っている。

広報用画像



24mm 合板の家（写真：矢野紀行）



Tea Square 森半（写真：大竹央祐）



アルファヴィルゲストハウス（写真：大竹央祐）



アトリエハウス（写真：杉野圭）

< 広報用画像は以下よりダウンロードお願いします >

<https://drive.google.com/drive/folders/1nxMgPmKmcS2d5Qig5ZJ3k5C9gNm1XKH9?usp=sharing>